

仕事の現場で見習いとしての期間中、経験豊富な指導者の下で実務を経験し、仕事に必要な知識、技能を習得する「アプレンティスシップ」。現代版の徒弟制度と呼ばれ、愛知県では、福祉事業所が「師匠」となり、介護業界に関心を持つ高校生らを受け入れている。事業所側は人材の育成と確保、高校生には学費と就労の両立というメリットがあり、取り組みはじわりと広がっている。

人手不足の業界 資格取得料を援助

「もう少し、一緒に頑張ろうね」。2月下旬、名古屋市中村区にある介護施設で、私立聖霊高校（愛知県瀬戸市）3年の大野想亜さん（17）がレクリエーション中の高齢女性にやさしく語りかけた。介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）を高校2年の夏に取得した大野さん。進学する大学が決まった昨年末から週2日ほどのペースで働き、食事の配膳といった間接業務を担う。将来何がしたいかはまだ決め切れていないけれど、介護分野にも興味があるので「この仕事は続けたい」と笑顔を見せた。

大野さんのように介護現場に「弟子入り」する高校生は、県内で少しずつ増えている。その流れを生み出したのが、県内の社会福祉法人や医療法人などが共同で始めた「介括奨学生プログラム」だ。介護の入門的資格とされる初任者研修でも受講費用として約10万円

介護現場に 弟子入り

高校生へ技能と給与



施設利用者のレクリエーションを手伝う大野想亜さん（左）。名古屋市中村区の小規模多機能型居宅介護しよこいで

で資格を得てスキルアップを図るチャンスになる。2022年にスタートし、これまでに約50人が初任者研修を修了したという。若者のキャリア教育を支援し、事務局として関わる一般社団法人アスパシ（名古屋市の）毛受芳高代表理事は「働きなからスキルと知識を身に付けられる上、自立できる足掛かりもつくれる」と意義を語る。

研修会など開催 アルバイトと一線

このプログラムを作成する上で特にこだわったのは、高校生から始められること。文部科学省によると、大学入学初年度に支払う学費（年間授業料と入学金）は直近約30年間で国公立大がそれぞれ1・5倍、私立大は1・4倍に上昇。とりわけ私立大は、教育環境整備などの名目で毎年のように上がっている。毛受さんは「学費が高騰する今、進学時の資金不足に生徒自身が備えることができる」と強調する。

高校生たちの学びにつなげるためにアスパシが企画したセミナーの様子＝名古屋市中村区で（アスパシ提供）

単なる労働力を提供するアルバイトにはせず、生徒たちの学びにつながるようプログラムには工夫を凝らした。その一環として、初任者研修を終えた生徒を対象に毎月、アスパシが独自に研修会を開催。内容はコミュニケーション力などを養うセミナー、介護事業所を立ち上げた起業家の体験談を聞く会などさまざま。アプレンティスシップが盛んな英国では、職場から離れてセミナーや研修を行う重要性が認識されているといい、毛受さんは「同じ仕事だけを続けていると、成長が止まってしまふ。プログラム全体で生徒たちの学びを促進したい」と語る。大学進学後もプログラムを継続する学生は少なからずいる。大（名古屋市中村区）1年の前田楓さん（19）もその一人だ。市内の介護施設で働き、実務経験をさらに積むことで国家資格の「介護福祉士」取得を目指す。働いている施設の利用者には認知症の人が多く、い、「実際に働くことで、講義だけでは分からないことを知ることができると声を弾ませる。毛受さんは「アプレンティスシップを経験すること、進学する生徒は進学動機を明確にすることができている。現在は介護分野に限られていたが、就職を迷う生徒もその経験を生かしてキャリアをスタートできる」と語る。今後、介護以外の業界でも同様のプログラムを展開する予定という。

愛知・公立高7割「バイト禁止」 学業優先の校則が壁

アプレンティスシップは有用な教育プログラムとして認知度が高まりつつある。ただアスパシによると、アルバイトを禁止する校則が、高校生の参加を阻む壁になっている側面があるという。アスパシは2024年度、本紙がネット上で公開している愛知県内の公立高校の校則データベースなどを活用し、実態を調査。全日制の全161校のうち、7割がアルバイトを原則禁止としていた。アルバイトを自由としている高校や届け出制で認めて

いる高校は1割ほどだった。多くの高校では、生徒は学業を優先すべきだと考え、事情がある場合を除いてアルバイトは不要とされてきた。ただ近年、そうした風潮は変わりつつあり、岐阜県では公立高校全66校が原則「届け出制」に切り替え、三重県でも、許可制から届け出制に切り替える公立高校が増えてきた。アスパシの毛受さんは「アプレンティスシップのプログラムは労働力を提供するだけのアルバイトではない。キャリア教育の重要性が高まる今、愛知でもバイトの扱い方を議論する時期にあるのではないかと訴えている。